

ソレイトヨリ 速報です!!

★アビリンピック入賞★
10月25日(土)にホンダ太陽
(株)日出口にてアビリンピック
が開催され、今年もビルクリ
ニング部門にソレイトヨリが
参加し、2名の古が見事入賞さ
れました!!

金賞 衛藤 誠治さん
銅賞 田中 邦典さん
入賞おめでとうございます。
そして選手のおみなさん、お疲
れさまでした。

2014 11月行事予定

3日(月) 休園日
12日(水) 訪問理容
13日(木) S17日(月)
ときめき作品展

2014 12月行事予定

29日(土) S30日(日)
慰安旅行 (ソレイトヨリ)
15日(土) 25周年記念パーティー
21日(金) オータムハイク
24日(月) 開所日
28日(金) オータムハイク
29日(土) S30日(日)

10日(水) 訪問理容
※都合により変更になる場
合があります。
23日(火) 開所日
26日(金) 仕事納め
※リサイクルプラザは30日
まで作業があります。
この他にも、部署別で楽しい
行事を企画してまいります。詳細が
決まり次第、部署ごとにお知らせ
したいと思います。

職員突撃 インタビュー

今回の突撃インタビューは、
入社3年目の後藤春生支援員に
聞いてみたいと思います。
まず、自己紹介をお願いします。
後藤春生です。平成元年3月
日生まれ、25歳、O型です。
休みの日は何をしていますか。
休みの日は好きなもので、休
みの日は前日にお酒を飲んで寝
ます。
最近は何に興味がありますか。
最近は何もありません。
休みの日は何をしていますか。
休みの日は好きなもので、休
みの日は前日にお酒を飲んで寝
ます。
最近は何に興味がありますか。
最近は何もありません。



編集後記

夏至の朝
朝倉街道2
古城 均

午後八時を過ぎた。
朝倉街道はそろそろ平野部を離れて、山間
の狭い道へさしかかっている。町の明かりも
少なくなり、遅い九州の初夏の夜の闇が、二
人を運ぶトラックを包み込む。点されたヘッ
ドライトは、摺れて切れギレになった追い越
し禁止の黄のセンターラインを、弱々しく照
らしていた。車窓の風はいくぶん涼しくなっ
ている。
真一はどうしてもまだ言葉を出せなかった。
「何か...」
一言口をついて出たが、そのまま、また黙
った。沈黙は、さらに深くなっていく。
目の端に、祐子がハーフカラーのサングラ
スを外し、ハンカチで涙をぬぐうのが見える。
彼女も固く口を噤んでいる。
車はやがて筑後川縁に出た。しろい流れが
わずかに見え隠れする。対岸には原鶴温泉の
歓楽街の明かりが光っている。
やがて車は小さな杷木の町へと入った。町
の中程で真一は左側の安全確認のあと、盗み
見するように祐子の顔に視線を向けた。その
とき、ほんの一瞬だったが、顔を上げた祐子
の視線と、はつきりとぶつかった。
以前はかなり勝ち気だったはずの祐子の瞳
が、わずかな町の明かりに、物問いたげで意
外なほど寂しそうに浮かんできた。
さらに真一は言葉を出すことが出来なくな
った。あわてて視線を手に戻した。
祐子も黙ったまま少しづつむいて、ページ
ユのプリーツスカートのよじれを直すような
手つきをする。
二人は、ほんの一時半ほど前に、太宰府
近くの土産物店の店先で、まったく偶然に再
会した。
二年前二人は京都の広小路にある大学の学
生だった。真一が二回生で祐子が一回生だっ
た。夏につきあい始めて、新しい年が明け、
二人は互いに恋人だと思えるようになってい
た。だが、学年末の試験が終わる頃の寒い日
二人は、不幸にも突発した事件に関わってし
まう。やがて二人とも大学を中退することに
なり、事件以降一度も会うこともなく、別れ
別れにそれぞれの故郷へ帰った。
この二年間に真一は大学生活と事件と祐子
のことを、すべて忘れようと努めてきた。今
日の再会は、真一にとつてまったく予期しな
い突然の邂逅だった。それは祐子にも同じだ
らうか。

「宿をさがそう」
「見つかるといいな」
「食事の間合わないだろうか」
「大丈夫。君の宿を決めて、一度店に帰って、
ふと思つて、この気持ちは何だろう。祐子の
ことは遠い昔のこと、早く忘れてしまおう
ではなかったのか。」
「あるいは単に何かを決める...今から何を
しようかという相談は、気持ちを浮き立たせ
るのだろうか。」